

第36回「ハートミーティング」意見交換の内容について

京都市 歯科衛生士

★参加メンバーからの主な声

- 現在、本市では、京都市口腔保健推進行動指針「歯ッピー・スマイル京都」に基づき歯科保健を進めている。「口は健康の見える窓」と言われるように、歯と口の健康は全身の健康に影響を及ぼすといわれている。
- 本市の歯科衛生士は 7 名おり、保健福祉局に 1 名、教育委員会事務局に 1 名、各区の保健センターに 5 名、それぞれ配置されている。各区保健センターに配置されている歯科衛生士は、地域の歯科保健を推進するため、母子歯科保健や成人歯科保健等、幅広いライフステージにわたる事業について、他職種や地域の方々と連携しながら取り組んでいる。
- 歯科衛生士が保健センターにすることで、地域の関係団体の方々との連携もこれまで以上に、緊密にとれるようになった。各区のイベントや講演会などの開催、関係団体が作成した冊子等への保健センター事業の掲載など、しっかりとした協力体制が構築されてきている。
- 歯科衛生士は人数が少なく、一人で複数の区を担当するなど、なかなか困難なこともあるが、とてもやりがいを感じている。市民の皆様が笑顔で暮らせるよう、歯科保健を推進していきたい。

★市長からのコメント

- 口の健康は人生を豊かにする原点であると考えている。健康であることで医療費が削減される。歩くまちが推進され、地球にもやさしい。皆さんには、あらゆる分野の取組の根幹部分を担ってもらっている。
- 地域の方々や関係団体の方々と協力し、様々な事業を進めてもらっている。私自身、イベント等へも積極的に参加しているが、ユニークで効果の高いものばかりである。
- 仕事の進め方は、「はしご」を例にとるとよくわかる。はしごは、普段、横にして置いておく。つまり、上下関係問わず大いに議論する。そして、使用する時は立てる。つまり、仕事を進めるときは、秩序ある指揮命令系統の下、各人が、それぞれの立場で力を発揮する。こういった考え方が大切ではないか。
- 決意をもって仕事に取り組めば、必ず道は開ける。前進できる。関係団体の方々とも大いに議論してもらって、市民の皆様の健康づくりに貢献してもらいたい。